

平成23年度

東邦大学付属東邦中学校入学試験

前期試験問題

国 語

(100点 45分)

注 意

1. 「始め」の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は16ページあります。試験中にページの不足などに気付いた場合は、手をあげて監督の先生に知らせなさい。
3. 監督者の「始め」の合図のあと、最初に受験番号と氏名を解答用紙のそれぞれの欄に記入しなさい。
4. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
5. 問題用紙はどのページも切りはなしてはいけません。
6. 「やめ」の合図で鉛筆をおき、所持品はそのままにして、ただちに退室しなさい。
入室の合図があるまで、教室の外の廊下で待ちなさい。
7. 試験が終わったら、問題用紙は持ち帰りなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

水問題を解決する方法として、水を増やす、水を浄化する、よそから水を運ぶなどが考えられます。ですが、打ち手はそれだけでしょうか。いえ、そうではありません。なぜなら「水は万物の命の源」といわれるように、あらゆるものに関係しており、たとえば、私たちが生きていくうえで欠かすことのできない食料やエネルギーとも密接につながっています。

まず食料生産に必要な水について考えていきましょう。パン1枚を作るには96リットルの水が必要で、米1合を作るには555リットルの水が必要です。なぜなら小麦や米を育てるには大量の水が必要だからです。

肉を作るにはもっと水が必要です。家畜である鶏、豚、牛は水を飲み、さらに水を使って育てた穀物をエサにしているからです。その結果、鶏肉1キログラムには4500リットル、豚肉1キログラムには5900リットル、牛肉1キログラムには2万6000リットルの水が必要となります。

日本の食料自給率は40パーセントほどですが、食料を輸入することは、^① 間接的に水を輸入していることになります。輸入する食料を生産するために使った水の量を計算してみると、年間640億トンの水を輸入していることとなります。日本は食料を通じて、中国から年間30億トンの水を輸入していることになり、同国の水不足にまわがちな影響をあたえています。アメリカ中西部には「世界のパンかご」と呼ばれる大農業地帯があります。ここにはオガララ水系という世界最大級の地下水脈が南北に走っており、これまで地下水をくみ上げて農業生産を行ってきましたが、枯渇が心配されるようになりました。牛肉生産地であるオーストラリアでは、水が高価で^② 貴重な資源となったため、牛の飼育をやめ、水をあまり使わなくても育ち、利益率の高いオリーブなどの作物に転換し始めています。

日本の食生活は外国の水にたよっているのですが、輸入相手国である、中国、アメリカ、オーストラリアが水不足である状況を考えると、これらの国から、^① 今までと同じように食料を輸入することは難しくなるでしょう。

う。

食料生産には水をよこすという側面もあります。地下水汚染を引き起こす汚染物質の代表は硝酸・亜硝酸性窒素です。これらは農地で過剰に用いられた窒素肥料や、畜産の排水などから出た窒素化合物が、土壌で分解されることによって発生します。水耕栽培といって、土を使わず、養分をとかした水だけで野菜を育てる技術が目されていますが、野菜を育てた後の水をどのように処理するかには課題が残っています。もし^③ 安いに捨てられることになると、河川や地下水を汚染することになるでしょう。

また、食べ残しの処理も水をよこします。日本は食料を世界中から買い集めているわけですが、世界一の残飯大国でもあります。食べられることなく、捨てられる食べ物は年間約2000万トン、供給量の約3分の1です。

日本人が食料を効率的に使用し、輸入量が減れば、穀物の売価も世界的に下がり、貧困になやむ発展途上国の人も食料が買えるようになります。それは水を大切にすることと同じです。なぜなら食べ物を作るにはたくさん水が必要ですから、食べものを捨てるのはたくさん水を捨てるのと同じです。

に捨てられれば水がよこれ、元にもどすために大量の水が必要になります。^② 食料のむだを減らすことは、まさに水のむだを減らすことにつながります。

次に食料とエネルギーの関係を見てみましょう。食料の生産には多くのエネルギーも使います。農業を支える肥料や農薬などは石油から作られます。農耕機械もガソリンで動きます。

専門家の多くは「2007年にピークオイルをむかえた」と言っています。今後はいくらか需要がのびようと、これ以上の石油を供給することができないということと、石油に支えられている^③ 現代農業は転換期に立たされました。

石油を原料とした肥料や農薬の調達が可能になれば、農作物の大量生産は難しくなります。これ以上、食料生産を増やすことはできません。つまり、ピークオイルは同時に食料生産量のピークです。

また、食料の輸送にもエネルギーが必要です。食料の輸送距離を「重量×移動距離」で示す「フードマイレール

「ジ」という考え方がありますが、食料の生産地と消費地が近ければフードマイレージは小さくなり、遠くから食料を運んでくると大きくなります。

今後、フードマイレージの可視化といって、遠くから運ばれてきた食料なのか、地元で農家が作った食料なのか売り場で示されるようになります。持続可能な社会を考えると、化石燃料の消費量は少ない方がよいのです。モノはなるべく動かさず、移動のエネルギーを少なくして、地産地消で生活できることが理想です。そのためにもフードマイレージは一つの目安となります。

大量の石油・石炭エネルギーが使われ、地球温暖化の原因になっていくことも見のがすことができません。エネルギー利用にもなつて、気候変動や酸性雨などの環境問題が深刻化してきました。

地球温暖化は石油・石炭などの化石燃料に依存しすぎた結果として起き、水循環のバランスをくずし、水不足や洪水を加速させています。気温が上がると海面からの蒸発が盛んになって、雲の発生が早くなります。その水蒸気が雨や雪になって地上に降り注ぎますから、雨量が増加し、水循環が早まります。ところが水の少ない地域では、気温上昇の影響で蒸発がより盛んになり、水不足がひどくなります。

Ⅱ 気候変動の影響を受け、チベット高原の永久凍土が急速にとけ始めています。アジアの河川の主たる水源であるチベットの氷河が消滅すれば、中国のみならず、アジア全体の水の将来に暗雲が立ちこめることになるでしょう。

世界各地から観光客がおとずれるマルタ島には、海面の上昇によってしずんでしまいそうな所があります。島のキ重な地下水にも海水が入りこむようになりました。マルタ島は観光による収入で、海水を淡水化しています。Ⅲ 化石燃料を使って食料や水を作ると、温暖化による気候変動が起きて水循環が変化し、それが「水不足」「水汚染」「地下水枯渇」につながります。Ⅳ 一時は水や食料を確保できても、長期的に見ると水や食料の枯渇につながってしまうのです。

Ⅲ 一時は水や食料を確保できても、長期的に見ると水や食料の枯渇

次に(4) 水とエネルギーについても考えてみましょう。水関連の事業はたくさんエネルギーを使います。日本全国の水道事業で使われる電力は、1時間に約80万キロワットで、これは^{※1} 原発1基分の電力に相当します。

水道はエネルギー消費産業という側面も持っています。ダムなどの水源から取水し、浄水施設で浄水し、ポンプで加圧する過程で大量の電力が使用されるのです。下水処理過程でも大量の電力が必要とされます。水道事業は、ハイテク化されることよつて、電力使用量が急増してきました。

とりわけ海水淡水化には、大量のエネルギーが必要です。世界各地の都市が、水不足を補うために海水淡水化を進めようとしています。エネルギーを大量に使い、^{※2} コストもかかるため、都市の持続可能性は弱まることになるでしょう。^{※3} ドバイのように、金がなくなると水もなくなるという事態になるでしょう。

海水淡水化を進めるならば、よりエネルギー消費量の少ない技術を検討すべきです。世界が化石燃料への依存を減らす方向へと進むなかで、限りある資源に頼る^{※4} プラントは改良が求められています。

あるいは同時に下水再生も行うべきです。下水再生は海水淡水化の2分の1のエネルギーとコストで済みます。こうした施策は海水淡水化を行うすべての地域に求められます。地下水がなくなったら豊富な海水を淡水化すればいいという目先の水を増やすだけの考えでは、地域は持続しません。

水とエネルギーという視点を持つと、⁵ なるべく少ないエネルギー消費量で水を確保することが大切だとわかります。日本の上下水道施設では、日本の総電力使用量の1・5パーセントを使用していますが、これを削減する方法も考えなくてははいけません。

たとえば上水道では、下流で取水し、それを上流域にポンプアップして利用しています。これを上流で取水して下流に流すようにすれば、ポンプアップの電力などむだなエネルギーを使用しなくて済むようになります。しかも上流から取水すれば、下流よりも水質が良いため浄水にかかる費用もおさえることができます。

また下水道についても、酸素をふきこんで排水を^{※5} かくはんし、微生物による分解をうながすエネルギーや、

二酸化炭素の300倍以上も温室効果のある一酸化二窒素の削減、下水汚泥おでいや汚泥処理の過程で発生する消化ガスの有効利用を進めていくことができるでしょう。

(橋本淳司「67億人の水」より。出題にあたり、形式を一部改め、また原文を一部省略しました。)

(注) ※1 原発……原子力発電所。

※2 コスト……費用。

※3 ドバイ……アラブ首長国連邦れんぽうを構成する国の一つ。

※4 プラント……物を生産するための設備。

※5 かくはん……かきまぜること。

問1 線①③と同じ漢字を使うものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|------|---|----|---|----|---|----|
| ① | カン接 | ア | カン全 | イ | カン係 | ② | キ重 | ア | 判付 | イ | 発判 |
| | | ウ | 体カン | エ | 時カン | | | ウ | 判約 | エ | 高判 |
| ③ | 安イ | ア | 住キヨ | イ | 賃エキ | | | | | | |
| | | ウ | 放シヤ | エ | 気クライ | | | | | | |

問2 I III にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～クの中から一つずつ選

び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|-----|---|-----|
| ア | つまり | イ | まったく | ウ | すでに | エ | どうか | オ | まるで |
| カ | おそらく | キ | さらに | ク | なかなか | | | | |

問3 線(1)「今までと同じように食料を輸入することは難しくなるでしょう」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食料の輸入相手国では、水不足のために食料生産に従事する人々が減少しているから。
- イ 食料自給率の低い日本は、水不足になやむ国々からも食料を輸入せざるをえないから。
- ウ 食料を輸入にたよる日本は、輸入相手国から水不足を解消する努力をせまられるから。
- エ 食料生産には大量の水が必要だが、食料の輸入相手国では水不足がすすんでいるから。

問4 線(2)「食料のむだを減らすことは、まさに水のむだを減らすことにつながるのです」とありますが、

この説明としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食べ残されて捨てられる食料を減らすことで、輸入した食料の量にゆとりができるため発展途上国へ再び輸出することができるので、結果として水のむだを減らすことになる。
- イ 食べ残されて捨てられる食料を減らすことで、不必要な食料の生産を減らすとともに河川や地下水をきれいにすることもできるので、結果として水のむだを減らすことになる。
- ウ 食べ残されて捨てられる食料を減らすことで、捨ててしまう水の量を減らすとともに河川や地下水の汚染を減らすこともできるので、結果として水のむだを減らすことになる。
- エ 食べ残されて捨てられる食料を減らすことで、食料生産におけるエネルギーの消費量を減らすことにより環境問題を解決できるので、結果として水のむだを減らすことになる。

問5 ——線(3)「現代農業は転換期に立たされました」とありますが、筆者は「現代農業」がどのように「転換」していくべきだと考えていますか。もつとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 石油を必要とする肥料や農薬、農耕機械の使用をひかえていく方法と、フードマイレージが小さくなるような方法で、化石燃料の消費量をおさえていく農業へ転換する。
- イ ピークオイルに対応するために代替燃料を使用して生産活動を行う方法と、農産物の輸送に必要なコストを減らす方法で、化石燃料の枯渇に備えていく農業へ転換する。
- ウ 限られた石油を効率よく使用する工夫によって食料生産量が減らないようにする方法と、食料生産のむだをはぶく方法で、化石燃料の有効活用をめざす農業へ転換する。
- エ 消費量を予測して生産量を計画的に調整していく方法と、遠くから運ばれる農産物をなるべく使わない方法で、化石燃料の埋蔵量に見合った生産をする農業へ転換する。

問6

□にあてはまる文としてもつとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 温暖化の問題がいかに深刻でも、やはり私たちは化石燃料に頼らずには生きていけないのです。
- イ 温暖化にともなう水不足の問題も、高度な技術を投入することで解決することができません。
- ウ 温暖化によって起きた問題によって、観光収入を全部水の確保に使わなくてはならないのです。
- エ 温暖化によって起きた問題を解決しようとして、結局温暖化の原因を新たに作っているのです。

問7

——線(4)「水とエネルギーについても考えてみましょう」とありますが、「水とエネルギー」について筆者は具体的にどのような視点から論を進めようとしていますか。もつとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 水の浄化は化石燃料に依存しているという視点。
- イ 水道事業は大量の電力を消費しているという視点。
- ウ 水道事業では原発の電気を使っているという視点。
- エ 海水淡水化はエネルギーの使用量を増やすという視点。

問8

——線(5)「なるべく少ないエネルギー消費量で水を確保することが大切だとわかります」とありますが、筆者がそのように考える理由としてもつとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 水道事業はハイテク化が進むたびに必要なエネルギー量が増しているため、化石燃料の不足がいつそう深刻になる心配があるから。
- イ 化石燃料への依存を減らそうとしている世界の動きに逆行することは、日本が世界から孤立することににつながるおそれがあるから。
- ウ 水道事業で必要とするエネルギーと費用が年々増え続けているため、このままでは現在と同じような生活を続けられなくなるから。
- エ 化石燃料の価格は年々値上がりが続いているため、海水を淡水化する方法だけでは人間が必要とする水を十分に確保できないから。

- 問9 本文の内容に合うものとして、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 水問題を解決するためには、水のむだをなくし食べ物や生活習慣を確立するとともに、少量の水でも生産できる農産物への転換をおし進めていく必要がある。
 - イ 水問題を解決するためには、エネルギー消費量が少なく化石燃料にたよらない農業生産や生産物の輸送を確立するとともに、食べ残しのない消費を心がけていく必要がある。
 - ウ 水問題を解決するためには、石油が枯渇する前に少ないエネルギーで成り立つ農業や水道事業を確立するとともに、化石燃料にたよらない食料輸送を考えていく必要がある。
 - エ 水問題を解決するためには、フードマイレージの小さい食料を買い求める消費のあり方を確立するとともに、ハイテク化した農業技術を積極的に取り入れていく必要がある。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中村さんの家は、誰もがよくみかける、山の中腹にたてられた小さな建売住宅です。家族は、おとうさん、おかあさん、それに高校二年になる長男の貴之君、中学一年の長女和佳子さんの四人暮らしです。四十四歳になるおとうさんは、小さな会社の課長さんです。

おとうさんはこのごろ心配事などがあって、気が晴れません。長男の貴之君が、どうも変なのです。

文房具代に かこつけて、 ひんばんにお金をせびるのです。ウソらしいとは思いますが、調べるのも気が引けて、ついお金を渡してしまいます。家のローンなどで家計も苦しいので、おとうさんは自分のなげなしのおこづかいから貴之君に渡す事もありました。

それに言葉遣いも、日一日と粗野になっていくようです。でもおとうさんは貴之君が、妹をとともかわいがる、やさしい子だった事を知っていましたから、まだ信じる気持ちも強くなりました。

それにもう一つ、 おとうさんがさびしい気持ちになった出来事がありました。それは、長年使っていたお弁当箱に穴があいてしまったのです。底の深い、不恰好なお弁当箱でしたが、ひどくがっかりしました。

おかあさんが近所のスーパーで、貴之君とおとうさんのお弁当箱を、二揃い買って来ました。貴之君は今までお金を持って学校へ行っていたのですが、なるべくお金を持たせないようにと、この際お弁当にしたのです。しかしおとうさんは、このお弁当箱が気に入りません。なぜかという、おかず入れとごはんをつめる箱が別になつてからです。

おとうさんのお弁当のおかずは、毎日毎日、シヤケです。会社でも有名なぐらいです。シヤケの切身きんみを焼いてごはんの上のせ、ふたをした、あれです。おとうさんはお弁当をたべる時、フタをあけて横におきます。そして、ごはんの上のシヤケをそのフタに移すのです。するとシヤケに押しつぶされたその部分だけ、うす黄色になっています。そこがおとうさんは大好きなのです。わざわざ回りを先に食べて、その部分を一番あとから食べる時もあるくらいです。もうそれも出来ません。

春もはる たけなわたけなわとなった、五月のある暖かい日のことです。午前中の仕事を終えたおとうさんは、いつものように、慣れた手つきでかばんからお弁当を取り出しました。

おかず入れを開けてみて、

I

牛肉のしょうが焼、ウインナーのため、玉子焼、それにレタスまで入っているではありませんか。おとうさんはおどろきの目でしばらくながめていました。側そばを事務員が通りがかったので、少しあわててフタをしました。

II

次にごはんを開けました。おとうさんの目に信じられないものが、とびこんできました。そこには、真っ黒なのりが一面すきまなく、敷しかれてありました。

まさか、とためらいながらおとうさんは、はしで箱の隅すみをほじりました。

『やっぱりだ』

III

それは二段のり弁当だったので。

おとうさんは、遠い昔、もういまはいない、おふくろさんが、赤茶けたうすいのりで作ってくれたのり弁当おむを出しました。二十数年振りののり弁当だったので。

IV

その日一日、おとうさんはほのほのとした、あったかい気持ちで過ごす事が出来ました。

帰りに駅前の果物屋さんで、少ないお金を割きいて、まだ高いメロンを四個もおみやげに買いました。 (3) 二

日は一分でも早く家に帰りたい気持ちでした。

玄関げんかんのところまで来ると、貴之君の何やら怒鳴どなる声が聞こえて来ました。おとうさんは、暗い気持ちになりました。一歩二歩近づいた時、今度ははっきりと貴之君の声が聞こえました。

『あんな弁当食えるかよ！』

何やら今度はお弁当にかこつけて、おかあさんをいじめているようです。

おとうさんは怒りが込み上げてきました。

『4 今日こそ貴之とじっくり話そう』と心に決めて玄関を開けました。それと同時におかあさんの声かとびこんで来ました。

『おとうさんのお弁当と間違えたのよ』

おとうさんは聞こえてしまいました。

そうだったのです。おかあさんが間違えて、おとうさんのシヤケ弁当を貴之君に持たせてしまったのです。

『5 おとうさんは力なく、『ただいま』』といって、二人の顔を見ました。おかあさんのいつもの困った顔がありました。しかし貴之君の顔はいつもと違っていました。あわれむような、それでいて、とてもやわらかい表情をしていました。

おとうさんは、何となくバツが悪くて、メロンをそこに置いて、二階へ上っていきました。

『6 この事があってから、中村さんの家に変化が起こりました。』

最大の変化は何といても貴之君です。

家からお金を持ち出す事がめつきりというよりほとんどなくなったのです。言葉は相変わらず荒々あらからしいのですが、やさしさが含まれているように感じられます。

おとうさんのお弁当は前と同じシヤケ弁ですが、貴之君のおこぼれも入るようになりました。
おとうさんは何度か貴之君に、『シヤケ弁もうまいんだぜ』と云おうと思いましたが、思いどまりました。
貴之君が立ち直った原因が、たとえおとうさんのお弁当にあったとしても、それは結局、貴之君の V
がなした事だと、おとうさんにはわかるからでした。

(7) 暖かい春の日差しが、今日も中村さんの家につばい差し込んでいます。

(増野純高「おとうさん」より。出題にあたり、原文の形式を一部改めました。)

問1 〳〵線 a 「かこつけて」、b 「たけなわ」は、どのような意味ですか。もっとも適切なものを次のア、
エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-------|---|-----------|---|------------|
| a | かこつけて | ア | 口実にして | イ | うまく流用して |
| | | ウ | 水増しして | エ | きっかけにして |
| b | たけなわ | ア | ようやく始まるころ | イ | しだいに活気づくころ |
| | | ウ | そろそろ終わるころ | エ | もっともさかんころ |

問2 〳〵線(1)「ひんぱんにお金をせびるのです」とありますが、「ひんぱんにお金をせびる」貴之君に対して「おとうさん」はどのように考えていますか。もっとも適切なものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 貴之君は、お金に困ることがあるのに言い出せずにいるのではないかと心配している。

イ 貴之君が、内証で何か良くないことにお金を使っているのではないかと心配している。
ウ このまま貴之君を放置すると、わが家が破産してしまうのではないかと心配している。
エ このままでは貴之君にむだづかいのくせをつけてしまうのではないかと心配している。

問3 〳〵線(2)「おとうさんがさびしい気持ちになった出来事がありました」とありますが、「おとうさん」を「さびしい気持ち」にさせたのはどのようなことですか。適切なものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 長年使っていた愛着のある弁当箱に穴があいて、使えなくなってしまったこと。
イ 貴之君を信じることができず、彼にお弁当を持たせることにしてしまったこと。
ウ 「おかあさん」の買ってきた弁当箱が、貴之君とお揃いの弁当箱であったこと。
エ おかず入れが別になった新しい弁当箱では、シヤケの切身が入れられないこと。
オ 新しい弁当箱では、シヤケに押しつぶされたごはんの部分が食べられないこと。
カ お弁当のおいしい部分を一番あとから食べることが、もうできなくなったこと。

問4 I M にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア、エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア おとうさんは息をのみました イ おとうさんは、やっぱり許せない気持ちでいっぱいです
ウ おとうさんは不安になったからです エ おとうさんは、不覚にも、目がしらが熱くなりました
オ おとうさんは少しだけ悲しくなりました カ おとうさんは心の中でさけんで、天をおおぎました
キ おとうさんはだんだんと腹が立ってきました ク おとうさんは何となく、はずかしかったです

問5 ——線(3)「この日は一分でも早く家に帰りたい気持ちでした」とありますが、その理由としてもっとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 二十数年ぶりののり弁のお返しに買ったメロンを、できるだけ早く家族に見せてしまったかったから。
- イ 今日に限ってなぜのり弁だったのかわからず、早くわけを知りたいという気持ちでいっぱいだったから。
- ウ なき母を思い出させるのり弁によって、家族だんらんひとときを味わいたいという思いになったから。
- エ のり弁を作ってくれた「おかあさん」のために、帰ってから家の仕事を手伝ってあげようと考えたから。

問6 ——線(4)「今日こそ貴之とじっくり話そう」とありますが、「おとうさん」がそのように思った理由としてもっとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 信じきっていた貴之君のあまりにもひどい言葉遣いに、いつもの冷静な気持ちではいらなかったから。
- イ おいしいお弁当を作ってくれる「おかあさん」のただ一度の間違いを責める貴之君を許せなかったから。
- ウ 大切にしようとしている家庭をこわしてしまふような貴之君の言動を見過ごすことができなかったから。
- エ どうとう「おかあさん」までいじめるようになってしまった貴之君に、もはやがまんできなかったから。

問7 ——線(5)「おとうさんは力なく、『ただいま』といって、二人の顔を見ました」とありますが、このときの「おとうさん」の気持ちは 望 という二字の熟語で表すことができます。その熟語を答えなさい。

問8 ——線(6)「最大の変化は何といっても貴之君です」とありますが、貴之君が変化した理由を「おとうさん」はどのように考えていますか。もっとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 貴之君は、シャケ弁で満足している「おとうさん」をあわれに思い、自分がしっかりと家族を守っているという気持ちになつてくれたのだろう。
- イ 貴之君は、「おとうさん」が質素な弁当でがまんしているのだから、自分もなるべく家族に迷惑をかけるいようにしようと考えてくれたのだろう。
- ウ 貴之君は、自分がいくら反抗的な態度を取っても「おとうさん」はだまって見守ってくれていたの、その思いに応えようとしてくれたのだろう。
- エ 貴之君は、「おとうさん」をはじめ家族がみな懸命に食費を節約していることを知り、自分のこれまでの行いはずかしく思ってくれたのだろう。

問9 V にあてはまる言葉を本文中からぬき出して答えなさい。

問10 ——線(7)「暖かい春の日差しが、今日も中村さんの家にいっぱい差し込んでいます」はどのようなことを表していますか。もっとも適切なものを次のア、イ、ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「おとうさん」のあたたかい人がらによって、中村家がしっかりと守られていること。
- イ シャケ弁をめぐる事件によって、中村家の家族のきずながいつそう強固になったこと。
- ウ 家族の支えで貴之君も立ち直り、中村家によくしあわせな日々がおとずれたこと。
- エ 家族の間に小さな波風が立ちながらも、中村家の人々がなごやかに暮らしていること。